

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）等の外部評価について

（平成29年6月2日 企画課作成）

1 総合戦略の概要について

別紙「秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のとおり

2 評価の趣旨について

(1) 基本的背景

総合戦略では、国からの通知（技術的助言）や地方創生関連交付金の制度要綱により、学識経験者等の第三者の検証（意見）を求め、自己評価の透明性、客観性及び公正性を確保することが求められています。

(2) P D C Aサイクルの構築

総合戦略で掲げた施策について、その進捗状況の効果や課題を検証し、必要な見直しを図るため、P D C Aサイクルを構築し、変化し続ける行政需要に的確かつ柔軟に対応します。

(3) 市民等との共有

事業の推進に当たっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組んでいくことが必要であるため、評価結果（報告書）を公表し市民等と共有します。

3 評価の方法について

市総合戦略では、計画の進捗状況を検証するため、数値目標（K G I）と重要業績評価指標（K P I）を設定しています。K G Iは、基本目標（大柱）ごとの施策の達成度合いを5年の計画期間を単位として検証するための指標で、計画期間終了後に検証することとしています。また、K P Iは施策（小柱）ごとの進捗状況を基本的方向である中柱単位で検証するための指標であり、毎年、効果検証し、必要に応じて見直しを行うこととしています。

(1) 自己評価について

市では、各部局において、総合戦略における施策の最小単位である具体的施策77事業（小柱）の進捗状況について自己評価を行うとともに、中柱単位でK P Iの達成状況の検証を行います。また地方創生関連交付

金対象事業（４事業）についても、総合戦略と一体的に評価を行うため、各部局において同様の作業を行います。

（総合戦略の具体的施策（小柱）の自己評価区分）

区 分		考え方
A	順調に進んでいる	すでに目標を達成している場合、事業の取組状況から総合的に見て、基本目標の達成に向けた取組みが順調なもの
B	概ね順調に進んでいる	基本目標の達成に向けた取組みが概ね順調なもの（目標値が前年度並み、又は上回っている場合など）
C	やや遅れている	基本目標の達成に向けた取組みがやや遅れているもの（目標値が前年度と比べ悪化している場合など）
D	遅れている	基本目標の達成に向けた取組みが遅れているもの（目標値が前年度と比べ悪化しており、改善の取り組みが明確でない場合など）

（交付金対象事業の自己評価区分）

区 分		考え方
A	非常に効果的であった	目標値を上回った場合など
B	相当程度効果があった	目標値を上回ることにはなかったが、目標値を 7 割～8 割程度達成した場合など
C	効果があった	目標値を上回ることがなかったものの事業開始前より改善した場合など
D	効果がなかった	事業開始前よりも数値が悪化している場合など

（2） 外部評価について

ア 総合戦略

市の自己評価及びK P I の達成状況を踏まえ、４つの基本目標（大柱）ごとに４段階で評価を行っていただきます。なお、基本目標に向かっている進捗状況を客観的に検証するため、K P I をひとつの指標としていますが、K P I だけでは効果を測りきれない取り組みもあることから、小柱単位での取組状況等を勘案して、総合的な評価を検討していただきます。

(総合戦略の外部評価区分)

区 分	
A	基本目標に向かって順調に進められている
B	基本目標に向かって概ね順調に進められている
C	基本目標に向かってやや遅れている
D	基本目標に向かって遅れている

イ 地方創生関連交付金

市の自己評価及びK P I の達成状況を踏まえ、4つの交付金対象事業について、2段階で総合的な評価を行っていただきます。

(交付金対象事業の外部評価区分)

区 分	
A	有効であった
B	有効とは言えなかった

ウ 評価の総括

総合戦略及び交付金事業において、今後、事業を推進するうえでの課題や改善すべき事項、期待する事項などについて、総括的なご意見をいただくとともに、市の自己評価と基本目標に向かっての成果を測る指標であるK P I の達成状況とが結びついていない場合や既設定のK P I からでは、事業の効果が見えにくい場合などは、K P I の見直しについてもご意見をいただきたいと思います。